

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190103768		
法人名	(株)グレースホーム		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県岐阜市粟野西6丁目117-2		
自己評価作成日	令和4年3月9日	評価結果市町村受理日	令和4年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosyoOd=2190103768-00&amp;SerViceOd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosyoOd=2190103768-00&amp;SerViceOd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年3月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

建物は木造平屋建てとなっており、室内はバリアフリーとなっています。季節ごとに装飾品を変え季節を感じてもらえるよう工夫しています。居室、リビングは木を基調とし温かみがあり落ち着ける空間となっています。内部はシンプルで災害時に速やかに避難できるようになっています。新型コロナウイルスの影響で外出や外食などの行事が行えていません。令和2年に移転し直ぐに新型コロナウイルスが流行した為、地域行事等中止で地域の方との交流ができていないので、今後の課題としています。新型コロナウイルスで自粛生活をしていますが、感染防止対策をしっかり行い、施設内などで行えるイベントなどを企画し楽しんでもらえるよう努めたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

朝食の時間を利用者の思いを大切に職員と相談し、ゆっくりと寝ていたい人には時間をずらすなど工夫している。職員は、利用者一人ひとりを把握し洗濯や掃除、調理など出来ることを手伝ってもらい、役割を持った生活を送ることができるように支援している。ウォーキングや買い物、化粧など利用者の思いを大切に個別の支援を心掛けている。代表者は、事業所で職員と一緒に働き、日常的に職員の意見や要望を聞いている。利用者の目線で考え、思いを叶えられるように職員間で話し合いながら、利用者が楽しく笑顔で過ごせるように取り組んでいる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念である かえでの頭文字をとった かぞくと地域のつながりを大切にします。えがおで楽しく過ごせる生活を提供します。できることは見守り支援します。玄関、フロアーに掲示し実践できるよう努めています。	代表者は、事業所で職員と一緒に働き、気が付いた時に理念について話をしている。職員は、笑顔で接する事を大切にし、利用者のペースで調理や掃除、草むしりなど役割を持って楽しく過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入はしていますが、コロナ禍の影響により、地域行事の中止で地域との交流がほとんどできていません。	自治会に加入し、地域の回覧板から情報を得ている。天気の良い日に散歩に出掛けた時や玄関先で日光浴をしている時に地域の方や登下校の中学生と挨拶をしているが、地域に事業所の情報を発信出来ていない。	事業所の取り組みや利用者の生活状況など事業所から情報を発信し、地域と良好な関係が築けるような取り組みを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事等すべて中止になっており実践出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面にて運営推進会議を開催し、各関係者の方々より、意見や要望を聞きサービス向上につなげています。	コロナ禍のため書面で開催し、事業所の行事や近況などを報告して書面で意見を返信してもらっている。地域の代表者から運営推進会議の議事録を地域に回覧してはどうかと意見があり検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に毎月初めに入居人数待機者情報を提供する他電話で分からない事など相談し、助言を受けながら協力関係を築くよう取り組んでいます。	代表者は、介護保険法の改正や書類作成、コロナ対策など市の担当者に聞いている。市へ空き情報を提供したり、市の包括支援センターより利用者の紹介を受けたりして関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、日ごろから話し合いをし、身体拘束をする事によりどのような弊害があるかを理解し取り組んでいます。	代表者は、家族に転倒のリスクについて説明し利用者の行動を制限しないように心掛けています。4本柵やスピーチロックなど事例をあげて弊害やリスクについて職員間で話し合っているが、定期的な委員会や研修会を開催していない。	定期的に委員会や研修会を開始し身体拘束や虐待、その弊害について正しく理解できるように取り組んで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックや、声掛けの仕方、声のトーンに注意を払い、職員間同士で注意しながら虐待防止に努めています。		

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度を活用されていますが、施設内での勉強会等実施できていないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人家族の方に分かりやすく説明をし契約の締結をし、価格改定時には書面、電話等で説明し署名捺印をして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等に参加していただき、ご意見要望をお聞きし、意見や要望等を職員及び外部の方へ報告し運営に反映している。	電話で利用者の状況を伝え意見や要望を聞いている。イベントや日常生活の写真をSNSで送信することもある。家族より面会したいと要望がありテレビ電話や玄関先での面会を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々に意見や提案を聞き、検討し改善できる事は直ぐに改善しています。	代表者は、事業所で職員と一緒に働き、日頃から意見や要望を聞いている。職員間で相談することを大切にして利用者の思いが叶えられるように取り組んでいる。朝食の提供時間や方法など職員の意見を反映して変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状況を把握し、給与の昇給や賞与を支給しています。人手不足により、個々に無理しているのが現状です。人材確保し無理なく働ける環境になるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足の為業務優先になり研修会の参加や施設内研修が実施できていないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染防止の為他施設への相互訪問は中止していますが、電話などで情報交換をしています。		

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人の不安な事や困り事を傾聴する他入所後も徐々に信頼関係を築いていき本人が安心できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に現在の様子や経緯等をお聞きし困り事や悩みの相談をお伺いしどのような支援が必要か話し合い信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討されている方に可能であれば本人も見学に来ていただき、雰囲気や様子を見ていただき、他のサービスなども視野に入れた助言などをし対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の能力を把握し、できる事は自分でやっていただき、掃除や洗濯干しなど職員と一緒にいき支え合いながら日々を過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の影響で自宅に外泊したり、一緒に出掛けたり施設の面会等も規制している為家族との関わりが出来ていないのが現状です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で面会や外出が出来ない為コロナ禍が落ち着いてきたら支援できるようにします。	利用者の初孫と毎週会えるように窓越しで面会を行っている。利用者より希望があれば、事業所の携帯電話を使って居室で電話している。利用者全員で撮った写真で年賀状を作り利用者が書いたり、スタンプを押したりして家族に送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から入居者同士の関係を把握し、職員が間に入り入居者同士が良好な関係を築けるよう支援しています。		

グループホーム 楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するとほとんどの家族の方と疎遠になっているのが現状です。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や訴えなどをされる方は少ないですが、家族の方からの情報などをもとに、一人ひとりに合わせた生活ができるよう検討し実践しています。	職員は、利用者の話を笑顔で相槌を打ちながら傾聴することを心掛けている。入浴時や居室など1対1となった時に思いや意向を聞いている。意志疎通が難しい方は、家族に相談し、利用者の気持ちを考えながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、入所後本人、家族の方にこれまでの生活歴や、環境など聞き取り職員間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックを行い、気分がすぐれない方はゆっくり休んでいただいたり、その日その日の様子を見て無理のないよう過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、現状に応じた支援をしています。変化や、きずきがあった場合主治医やケアマネジャーご家族様と相談し介護計画を作成しています。	作成担当者は、記録や職員に確認しながらモニタリングを行っている。利用者や家族にどのような生活を送りたいのかを聞き、職員と話し合っって計画を作成している。状態が変化した時は職員間で話し合っって作成担当者に伝え、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録、申し送りノート業務日誌を活用し職員間で情報共有しています。支援内容の見直し介護計画の変更をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物代行や緊急時などの病院付き添いや家族の方が対応できないことを支援しています。		

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年にはコロナウイルスの感染防止の為、入居者の方々を公共施設や商業施設などへの外出はできていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回定期的に、協力医の往診があり、健康管理を受けています。往診時以外にも体調が悪くなった場合電話で相談し指示を受けながら対応しています。	かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族が同行するときは書面で状態を知らせ、結果を確認している。家族が行けない時は職員が同行し病院で待ち合わせることもある。事業者は複数の協力医と契約しており、家族は選ぶことができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している訪問看護ステーションの看護師と情報共有し急変時を含め24時間体制で支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを提供し情報共有しています。分からないことは電話で説明し、施設で対応できる事できないことを伝え相談しながら関係を作っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、本人、家族の方と話し合いをし意思や思いを尊重し施設でできることを明確にし終末期の方針を決め、主治医、訪問看護師、職員、家族と協力しながら可能な限り住み慣れた施設で最期を迎えられるよう取り組んでいます。	契約時に事業所の方針を家族に説明している。状態の変化に伴い、利用者の状態やリスクなど詳細を家族に説明し、利用者の幸せを考えながら家族の意向に添えるように取り組んでいる。コロナ禍であるが終末期には、事業所から家族に連絡し面会できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルは作成していますが、事故発生時の初期対応や訓練を行っていないのが現状です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署、セコム警備員立ち合いにて避難訓練を実施しています。非常食、簡易トイレ、飲料水を備蓄しており、年1回消費期限のチェックをしています。地域との協力体制は築けていません。	年2回夜間想定を含めて訓練を行っている。事業所近くの中学校に避難して良いか確認し承諾を得ている。食糧や水、簡易トイレなどを備蓄している。地域の代表者からアドバイスを受けているが、地域との協力体制が構築出来ていない。	運営推進会議で相談したり、事業所から地域に情報を発信したりして協力関係が構築できるような取組を期待する。

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、言葉使いや接遇などに気を付けて、人格などを傷つけないよう対応しています。	トイレ誘導時や失敗した時は、羞恥心に配慮して対応している。職員は、利用者が嫌がられる接し方や言葉掛けをしないように心掛けている。利用者が希望すれば同性での介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動、言動、表情を観察しながら本人の思いを考慮しながら、接しています。困難な場合は今までの様子から本人の立場に立ち意見を出し、思いや意向の把握に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴等大まかに時間は決めていますが、その日の本人の体調に合わせて柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装など本人の好みに合わせ拘りを大切にし、爪切りや耳掃除を定期的に行い清潔感を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をリクエストしてメニューを決めたり、可能な方には、食事作りや片付けを職員と一緒にしています。	職員は、利用者から食べたい物を聞いて献立を考えている。利用者の使い慣れた茶碗や箸、湯呑みを使っている。利用者に食材を切ってもらったり、味付けしてもらったりしている。朝食は、時間に幅を持たせて利用者の意向に合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分量をチェックし、嚥下状態が悪い方にはトロミ剤を使用したり、おやつ時もお茶やコーヒー以外にジュースを提供したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。ご自身でうまくできない方は、介助にておこない、口腔ケアウエットティッシュ等を使用し口腔内の清潔を保っています。		

グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄記録をもとに個々の排泄パターンを把握し時間毎にトイレ誘導をし排泄支援をしています。できる限りオムツを使用しないよう支援しています。	オムツは最終的手段と考え、出来る限りトイレに誘導している。夜間でも、利用者に声を掛けてトイレに誘導している。退院後はオムツを使用していたが、利用者、家族の意向を確認してトイレに誘導し排泄できるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	あまり便秘薬に頼らず、軽い運動をしたり、牛乳やヨーグルトなどを摂取していただき自然排便ができるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日時は決まっていますが、個々に合わせた入浴を行っています。入浴が好きな方は毎日入られる方もいます。コロナ感染防止の為、介助者はフェイスシールドを装着しています。冬場にはヒートショックに気をつけて、寒暖差が無いよう管理をしています。	流れ作業とならないように心掛けて声掛けから整容まで一人の職員が対応している。入浴の回数や湯温、時間など利用者の要望を叶えている。一人でゆっくり入りたい方にはドア越しに見守ることもある。職員は、入浴剤や柚子を入れたり、会話したりしながら気持ち良く入れるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音や室内の温度調整をし、日中の活動を充実し夜間よく眠れるよう支援しています。消灯時間は特に決めておらず睡眠剤は特別な場合を除き使用しないよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有し、副作用などに注意を払い往診時に様子を伝え、減薬、変更などの指示を受けています。又服薬時は職員2名で日付名前を読み上げ誤薬事故防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、布団干し、花の水やり等出来ることは職員と一緒にやり個々に合わせた出来ることを見出し支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナワクチン接種は完了していますが、感染防止の観点から外出支援は行えていないのが現状です。	化粧品や靴、服など利用者が希望した時は職員と一緒に買い物に出掛けている。ウォーキングが好きな利用者と一緒に事業所の近くを散歩している。コロナ禍前は、家族に声を掛けて一緒にイチゴ狩りや花見に出掛けていた。	



グループホーム楓

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は困難なため、家族からお金を預かり可能な方は買い物に行かれる時本人にお渡し支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話を掛けることはないですが、職員の援助によりテレビ電話や、電話で定期的に家族に電話をしています。年賀状など作成し家族や友人の方に送れるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の装飾をしたり、書道やぬり絵などの作品を掲示しています。ソファなどを活用しゆったりくつろげる場所を設けています。	和室を改修して食堂とし、リビングで足を延ばしてくつろげるようにリクライニングソファを設置している。ソファに職員も一緒に座り会話を楽しんでいる。職員はリビングの温湿度に気を付けて定期的に換気を行って快適に過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、食事の時など仲の良い入居者同士隣にしたり、一人ひとりの気分や体調に合わせて居室、リビング、ソファで過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し家族の写真や本人の思い出のある物を居室に置き、落ち着いて過ごせるよう工夫しています。	テレビや布団、化粧品など使い慣れた物やぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込んでいる。初孫の写真や家族の写真を飾っている方もいる。毎日、居室で化粧したり、ご主人の遺影に手を合わせている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、廊下、トイレに手すりを設置しています。危険個所が無いよう、常に居室やリビング等を整理整頓し、危険個所の排除に努めています。		